

子とされる

1. 義認と伴って起きる、身分の変化に対する、救いの恩徳は何ですか。

信者は信仰によって義と認められるので、キリストに結合され、結合されたことで義認を得られます。彼らは義認と共に子とされるのです。この二つは身分の変化を現わす救いの恩徳です。子とされるとは、神の息子としての権威と特権を持つことです（ヨハネ 1:12、エペソ 1:5）。この子とされるとは、キリストによって、信じる者に与えられるのですが、永遠なる神の御子が、受肉して来られて、信じる者の兄弟となり、神はキリストによって信じる者を、子共となさるということです（ヘブル 2:10）。

2. 神の子とされる方法には、どんなのがありますか。

キリストは本性上、神の息子です。そして天使たちは、創造された者として神の子たちと呼ばれます。ところが神の息子となれる、もう一つの方法があります。神が子どもとして、養子縁組をして息子としてくださることです。旧約では、養子ということばがほとんど言及されませんが、新約では頻繁に言及されます。なぜなら、新約聖書が記録された時がローマ帝国時代だったので、ロ

一人には養子縁組をするのが一般的な慣習だったからです。この方法は、父なる神がキリストのために、信者を子共と宣言することですが、実際に神の子共の状態を受け入れてくださるのです。

3. 人々が子供を養子とするのと

神が子として養子とすることには、どんな差がありますか。

人々が子どもを養子とする時は、自分の子共たちに、新しい性質と性格を付与することはできません。しかし神は、ご自身の子として養子縁組して、彼らを新しい被造物と造るのです。パロの娘は、モーセを息子と養子とした時、モーセの潤しさを見て養子にしました。しかし神は、私たちにある、どんな功労も善行も根拠にならず、ただ、ご自身の愛を持って養子となさいます。

人々は子共を養子とする時、彼ら自身の慰めのためだったり、あるいは、ある目的のために養子とします。しかし神には、そのような目的がありません。神は、私たちが必要とする方ではありません。神にはキリストがおられ、いつも神を賛美する天使たちがいるからです。

4. 神が、私たちが子とする、理由はなぜですか。

神ご自身の無条件的な愛から出てくる主権的な選びです。また、キリストが成し遂げた御業に栄誉を与えるためです。キリストは、父なる神が選んだ者たちに救いが起こるように、この地において贖いの働きをなさいました。従って、父なる神は、息子であるキリストの権限を信じる者たちに適用させます。義認とは、キリストの義を適用させて、信じる者を義とみなすことですが、子となるということは、第一に生まれた者として、キリストが受け継ぐ相続分を神の民に、共に受けるようになさることです（ロマ8:16-18）。

5. 神の子供としての権威と、特権は何ですか。

子とされる聖霊と、キリストを通して神と交わりをすることです(1ヨハネ1:3)。本来私たちは、本性上の罪と腐敗によって神の怒りの下にいました。しかし、神の子どもという資格が与えられ、聖霊を受けたことによって、神と一つになり、神と親密に交際することができるようになったことです(ゼカリヤ13:7、詩45:7)。神が私たちの神となり、私たちの父となれたことです。

6. 子となれたことで、得られた有益は、何ですか。

罪の奴隷から解放され(ロマ6:14) 罪の定めから自由になりました(ロマ8:1)。子としてくださる御霊を受けたので、奴隷の恐れから自由になりました(ロマ8:15)。律法の儀式と律法の呪い、また罪の定めから自由になりました(ガラテヤ5:1)。勿論この時、道徳法から自由になったのではありません。道徳法は、神の聖であられる永遠の御心を含んでいるからです。もしこの時、道徳法からの自由と言うのなら、それは道徳律廃棄論に該当する誤りです。道徳法はキリスト者の生活の指針であり、神の聖なる原則を含んでいます。従って子とされた者は、古い人アダムから出て来る、罪の家族から断ち切られ、それ以上、罪の条件の中で生きることができなくなりました。

7. 子となれたことで得られる、より積極的な、有益は何ですか。

子となれたことと、神の家族につき合わされたことによって、恵みの御座に自由に出られるようになれました(1コリント1:30、ヨハネ14:6)。祈りによって父なる神に進み出るようになり(ガラテヤ4:6)、神の特別な摂理に関心を持つようになり、また経験するようになります。そして、恵みの影響の下にいるようになります(ロマ8:28)。子となれたことで得られる有益の中には、喜びがあります。つまり、子とされる聖霊によって、喜びが得られます(ロマ14:17)。

さらに子とする霊である聖霊さまが、信者の救われたことを証し（ロマ8:16）御国を受け継ぐことの保証を（エペソ1:14）信者の霊魂に霊的安全を確信させます。それで信者は、苦難の中でも喜び、栄光の望みの中で楽しみます。

8. 義と認められた、神の子どもは、いつも喜んでいられますか。

子とされた者にある喜びは、神のご好意を認識することで、心から喜びが起こされます。しかし信者であっても時々、闇の中にいることも、喪失の時期にも出会います。この時、信者は落胆に陥ったりもします。しかしこのような時にも、神の家族として、養子縁組された神の普遍の愛と、恵みとを記憶しながら楽しむことができます（マラキ3:6）。また霊的生活の源泉であるキリストを黙想することで、霊的疲れから抜け出て、望みを持つことができます。

9. 子とされたことで、神と交わりをする証拠は何ですか。

聖を追求するようになります（1ヨハネ1:6-7、ヨハネ14:17、ロマ8:9）。そしてその目を、天に向け焦点を合わせます。つまり、天の市民権者になれたことを記憶し、永遠の国を待ち望みます。（ピリピ3:20、コロサイ3:1）。また、ただ神の中で楽しみます（申4:7、詩84:12）。神を敬い、人には謙遜になります。神から来る導きと慰め、力を得るために、ただ神のみを続けて頼ります（ヨハネ15:5）。神の栄光を愛し、自分自身を聖く区別させます。

10. 子とされた、外的証拠は、何ですか。

子とされた霊に従って生きること、つまり、聖なる生活を追求することです。子とされる霊である聖霊は、「聖化主」だからです（ロマ8:14）。子どもが父を尊敬するように、子とされた者は、神を敬うことが生活によって示されるように

なります。従って彼らは、父なる神の命令と戒めに注意を払い、従順しようと努力します。また、子の霊である聖霊は、祈りの霊であるので、子とされた子共が、父の助けを得るために続けて頼むように、天の父に進み出て願いことを知っていただくのです。